補助金等収益	13,930,204,000	—	—	—	13,930,204,000	—	13,930,204,000	—	13,930,204,000
施設費収益	—	—	—	—	0	—	0	—	0
寄附金収益	—	—	717,885	8,043,913	8,761,798	—	8,761,798	—	8,761,798
その他事業収入	19,771	1,040,946	—	90,332,947	91,393,664	—	91,393,664	—	91,393,664
財務収益	3,027,402	5,066,056	347,614	169,044,320	177,485,392	—	177,485,392	—	177,485,392
雑益	10,169,017	47,985,321	5,341,008	9,583,504	73,078,850	—	73,078,850	—	73,078,850
事業損益	△ 638,239	4,511,380	1,067,334	△ 9,955,317,605	△ 9,950,377,130	—	△ 9,950,377,130	—	△ 9,950,377,130
総資産	5,300,083,401	14,094,185,699	444,637,410	18,300,710,212	38,139,616,722	—	38,139,616,722	1,735,840	38,137,880,882
（主要資産の内訳） 流動資産 現金及び預金	5,210,042,163	3,604,951,111	361,816,105	7,588,767,428	16,765,576,807	—	16,765,576,807	—	16,765,576,807
固定資産 金銭の信託	—	—	—	10,000,000,000	10,000,000,000	—	10,000,000,000	—	10,000,000,000

（注１）勘定及び事業の種類の区分方法及び事業の内容は以下のとおり

1　高齢・障害者雇用支援勘定

高齢者雇用支援事業及び障害者雇用支援事業は、独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構の業務運営並びに財務及び会計に関する省令第10条の規定により、区分して経理することが要請されております。

・高齢者雇用支援事業の主な内容は、独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構法（以下「機構法」という。）第11条第１項第１号から第３号までに掲げる業務及びこれらに附帯する業務。

・障害者雇用支援事業の主な内容は、機構法第11条第１項第４号に掲げる業務並びにこれらに附帯する業務。

2　障害者職業能力開発勘定

障害者職業能力開発校（職業能力開発促進法第15条の６第１項第５号に規定する障害者職業能力開発校をいう。）の運営に係る業務。

3　障害者雇用納付金勘定

納付金関係業務（障害者の雇用の促進等に関する法律第49条第１項に規定する納付金関係業務をいう。）並びに同法第73条第１項、第74条第１項及び第74条の２第１項に規定する業務。

（注２）各勘定経理区分の損益外減価償却相当額、損益外減損損失相当額、損益外利息費用相当額及び引当外賞与見積額並びに引当外退職給付増加見積額

（単位：円）

	高齢・障害者雇用支援勘定		障害者職業能力開発勘定	障害者雇用納付金勘定	計	法人共通	合計
	高齢者雇用支援事業	障害者雇用支援事業					
損益外減価償却相当額	124,858	239,074,638	866,249	51,385,463	291,451,208	—	291,451,208
損益外減損損失相当額	—	16,275,520	—	—	16,275,520	—	16,275,520
損益外利息費用相当額	—	3,781,041	—	—	3,781,041	—	3,781,041
引当外賞与見積額	—	△ 13,076,940	△ 679,037	—	△ 13,755,977	—	△ 13,755,977
引当外退職給付増加見積額	—	178,704,540	△ 12,015,852	15,393,029	182,081,717	—	182,081,717